広報 とうかい
7・25
第280号
平成27年7月25日号
▼発行 東海村（村長公室広報広聴課）
〒319-1192 那珂郡東海村東海三丁目7番1号 ☎029(282)1711 http://www.vill.tokai.ibaraki.jp

東海ぶらら倶楽部 presents

東海村発足60周年記念
村立図書館開館30周年記念

写真展「東海村の今いまむかし昔」

東海村の今と昔の姿を写した写真展の開催に伴い、その懐かしい写真をちょっとだけご紹介します！ 詳細は、２ページをご覧ください。

十三参りのにぎわい（大正６年）

村松山虚空蔵堂は大満虚空蔵菩薩を祭る「日本三体虚空蔵」の一つで、十三参りと共に、漁民や船乗りからも深く信仰されてきた。縁日は旧暦の３月13日だが、今は春休み中の４月３日を大祭としている。参詣者は、県央以北を主流に福島・東京・栃木・神奈川に及ぶ。かつては久慈川上流から舟での参詣者もあったという。昭和30年代は、阿漕ケ浦から八間道路まで隙間なく露店が並び、人をかき分けながら進むほどのにぎわいだった。十三参りは一種の成人儀礼でもあった。

ふるさと歴訪 ～歴史を再発見～

中道前６号墳

土浦市立博物館長
茂木 雅博

石神小学校の南側に、村内最大の円墳である別当山古墳が存在する。この古墳から小学校を経て住吉神社までの間に何基かの古墳があり、村では「中道前古墳群跡」として５基を登録した。その時点で５号墳と仮称した小学校内の古墳は、古くは里人が茅山（かやま）と呼んで親しんだ塚であると、願船寺の先代住職であった藤井實さんから教示され、その後「茅山古墳」と命名された。学校の改築に伴う発掘調査の結果、旧校舎の基礎工事により大規模な改変が行われる前の茅山古墳は、推定で全長約40ｍ、後円部径約21ｍ、前方部先端幅約21ｍ等であったことが判明した。

調査の終了後、グラウンド造成とプールの建設中に、茅山古墳の南西約30ｍ、地下約２ｍの地点から、新たに主軸を東西に採る１基の箱式石棺が確認されたため、この古墳を「６号墳」と呼ぶことにした。当時、私は茨城大学に勤務しており、教育委員会からの連絡を受けて急行したところ、既に石棺の石材は散乱しており、緊急に記録を残す必要があった。石棺は蓋石と南側石が全て除去され、北側石と東妻石が旧状をとどめていた。さらに、床面に敷かれた小石は全体的に保存されていた。しかし、造成工事がかなり進んでいたため、墳形を確認することは不可能だった。

調査の結果、石棺を埋置する墓壙（ぼこう）は東西３・６ｍ、南北２・２ｍの隅丸長方形で、その中央に北側石４枚、東妻石１枚が確認された。石棺の内法は東西２・２ｍ、幅60㎝、深さは東側30㎝、西側20㎝等を計測した。遺骸は４体検出され、内訳は壮年中頃～熟年前期女性１、壮年男性１、性別不詳成人１、10歳前後幼児１であった。遺骸の女性は身長が１５４㎝で、遺骨から数回妊娠したことが判明した。男性は身長が１６２㎝で、少し前かがみの歩行が想定されるという。副葬品はどの遺骨に伴うものか不詳であるが、直刀３振、管玉７、臼玉１、貝珠１、ガラス小玉84顆等を採集することができた。

中道前６号墳の箱式石棺

（附）本調査では遺骸の形質人類学的調査を京都大学片山一道教授に依頼した。